

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	観光型ホテル （商品企画担 当）	単価の動き	・台風の影響が無ければ稼働率は前年並みで推移す る。単価は若干プラス傾向である。
	変わらない	一般小売店 [衣 料品・雑貨] （経営者）	販売量の動き	・今年の梅雨は例年より雨が多いため、来客数が前年 より20%ほど減少している。直近3か月のペースで売 上高は伸びる予定だったが、前年同月比92%と減少し ている。
		百貨店（担当 者）	販売量の動き	・梅雨の影響を受けている。特に6月前半の集中的な 雨により父の日商戦の出鼻をくじかれた形となり、紳 士服フロアが苦戦した。父の日間に天候が回復して 売上は戻ったが、前半の不調はカバーできていない。 ただし、食品、住居、婦人衣料は好調を維持してい り、消費意欲は依然として活発であることから、一時 的な雨によるフロア限定の苦戦である。
		コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・梅雨明け後の好天により飲料や氷菓を中心に売上は 回復しているが、急激な暑さによる一時的なもので暑 くなればどこも同じである。今年は長雨の影響を受け ての落ち込みもあり、それと照らし合わせれば今のと ころ感覚的には復調しているように感じられるが、実 際には前年割れは必至である。主力の飲料の落ち込み が続き、量販店への流出も防ぎきれない。
		家電量販店（従 業員）	販売量の動き	・梅雨も明けて暑い夏になり、エアコンの販売が順調 に伸び始めている。記録的な長雨もあり、除湿機もか なり売れているが、商品単価が低くとどまっているの が現状である。
		その他飲食 [居 酒屋]（経営 者）	来客数の動き	・梅雨が明けて、観光客は増えているものの、遅い時 間の地元客がまだ戻ってきていない。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・完成見学会や展示場イベントの来場者数が増加傾向 にある。
	やや悪く なっている	その他専門店 [楽器]（経営 者）	販売量の動き	・観光客は多いが地元客が減少している。前年同月比 の売上は減少している。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・施設利用者は、3か月前の平成18年3月は前年同月 比で110%ほど、今月は6月24日現在で前年並みで推 移している。要因として今年の梅雨は特に雨量が多 く、また、土砂流失災害等が連日全国放映されたこと によるものと推測される。来園者は、中学生の修学旅 行、カップル、家族連れ等が中心である。
悪く なっている	住宅販売会社 （経営者）	競争相手の様子	・国、県の公共工事の発注が滞っている。競争相手の 倒産も発生し、景気の状況は特段に悪くなっている。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・契約件数が増加している。
	変わらない	食料品生産業 （財務総務担 当）	それ以外	・主原料肉類の価格が高いこと、原油高によって重 油、副資材の価格が高いこと、円安などの影響があ る。
		通信業（営業担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・受注量は一定水準を保っているが、受注単価が抑え られているので売上増につながらない。消費者向けの 光インターネットサービスの受注は順調に伸びている が、提供価格が非常に廉価なので、売上増にはまだ貢 献できていない。
	広告代理店（営 業担当）	取引先の様子	・自社も含めて、取引先の今年度第1四半期（4～6 月）の売上高が、前年比で上回る状況にないのが実情 である。全体的に大きな販促費を投下して売上拡大へ 挑むというよりは、極力支出を減らして前年売上にな 近づけようとする傾向にある。	

	やや悪くなっている	輸送業（営業・運営担当）	受注量や販売量の動き	・四半期毎（3か月単位）の船舶会社による燃料費調整金の値上げ要請が継続的に行われており、離島県の沖縄においては物流及び商流の圧迫につながり、物量減や価格調整が頻繁に行われている現状がある。各企業はできる限り安い所へ依頼するため、物流自体が安定しているとは言えない。
	悪くなっている	コピー業（代表者）	受注量や販売量の動き	・以前は個々の市町村からの仕事があったが、市町村合併により、量は多くなったものの各業者に行き渡らないようになっている。また、予算がひっ迫しているので、従業員の整理や印刷の仕事の減少は自明である。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・派遣依頼が幅広い業種から来ている。また、既存ユーザーからも追加での単発的な派遣依頼もあり、企業が活発に動き出している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数の前倒し傾向を危惧していたが、新規求人数も増加しており就職活動は順調である。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・金融、観光、情報等の業種が新規採用に積極的である。したがって、その他の業種も今後これに追従する。
	変わらない	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・求人を出す企業の募集人数が増えている所と減っている所があり、まちまちの状態ながら全体的には横ばいで推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月現在では、2月と比較すると新規求人数は22.2%減少の3,419人である。一般求人は17.3%減少で2,551人（構成比74.6%）である。パート求人は33.7%減少の868人（構成比25.4%）である。5月の新規求人は建設、不動産、運輸の分野で増加し、製造、情報通信、卸売・小売、金融・保険、飲食・宿泊、医療・福祉、サービスの分野では減少している。有効求人倍率は0.09ポイントも下降し0.52倍である。月間有効求人数は5.8%減少の10,169人である。
やや悪くなっている				
悪くなっている		-	-	-